

# 『総合型地域スポーツクラブの活動について』 変わる部活動

大阪教育大学附属高等学校  
平野校舎  
松田 雅彦

2021.02.08



# 本日の内容

- 部活動に関する国（スポーツ庁）の動向
- 学校部活動と地域部活動
- 総合型地域スポーツクラブと地域部活動の関係を考える視点
- 大阪教育大学附属高等学校平野校舎の取り組み紹介

# 国の動向 スポーツ庁

- 部活動は学校教育活動の一環(多様な生徒が活躍できる場)
- 令和5年から段階的に地域部活動へ移行する
- 教員の働き方改革（中学校の約6割が過労死レベル）
- 土日に教員が携わらない仕組み
- 生徒の希望に応じて休日に活動できる仕組み
- 地域部活動運営組織が必要（休日はここがすべてを管理）
- 休日に指導したい教師は上記団体に雇われる(兼職・兼業)
- 学校代表は平日の活動をしている人のみの集団
- 活動費用は保護者が負担、減免措置、国の支援も．．．
- 合同部活動やICTの活用
- 地方大会のあり方を整理
- 関係者の意識改革が不可欠

# 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革のスケジュール



# 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革 概要



## 部活動の意義と課題

- ✓ 部活動は、教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会や、多様な生徒が活躍できる場である。
- ✓ 一方、これまで部活動は教師による献身的な勤務の下で成り立ってきたが、休日を含め、長時間勤務の要因であることや、指導経験のない教師にとって多大な負担であるとともに、生徒にとっては望ましい指導を受けられない場合が生じる。
- ✓ 中教審答申や給特法の国会審議において「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」旨が指摘されている。

持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要

## 改革の方向性

- ◆ 部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえ、部活動改革の第一歩として、休日に教科指導を行わないことと同様に、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築
- ◆ 部活動の指導を希望する教師は、引き続き休日に指導を行うことができる仕組みを構築
- ◆ 生徒の活動機会を確保するため、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備

## 具体的な方策

### I. 休日の部活動の段階的な地域移行（令和5年度以降、段階的に実施）

- 休日の指導や大会への引率を担う地域人材の確保  
（育成・マッチングまでの民間人材の活用の仕組みの構築、兼職兼業の仕組みの活用）
- 保護者による費用負担、地方自治体による減免措置等と国による支援
- 拠点校（地域）における実践研究の推進とその成果の全国展開

### II. 合理的で効率的な部活動の推進

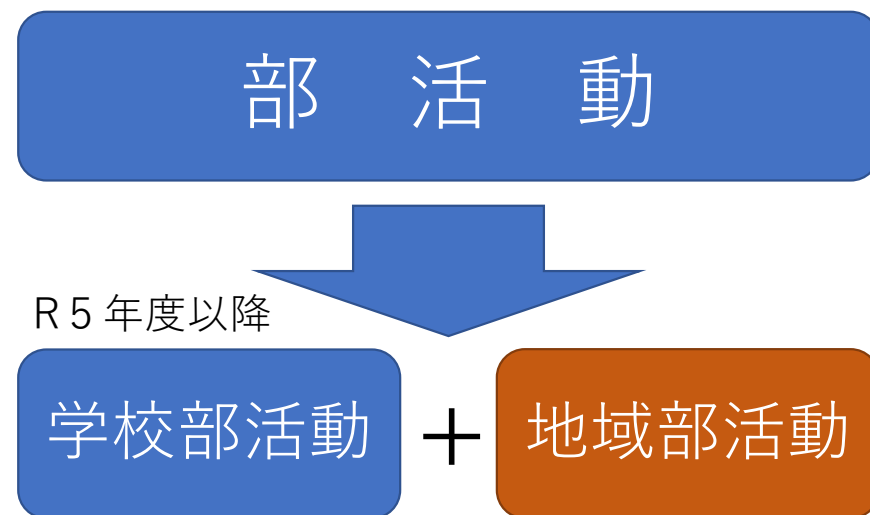
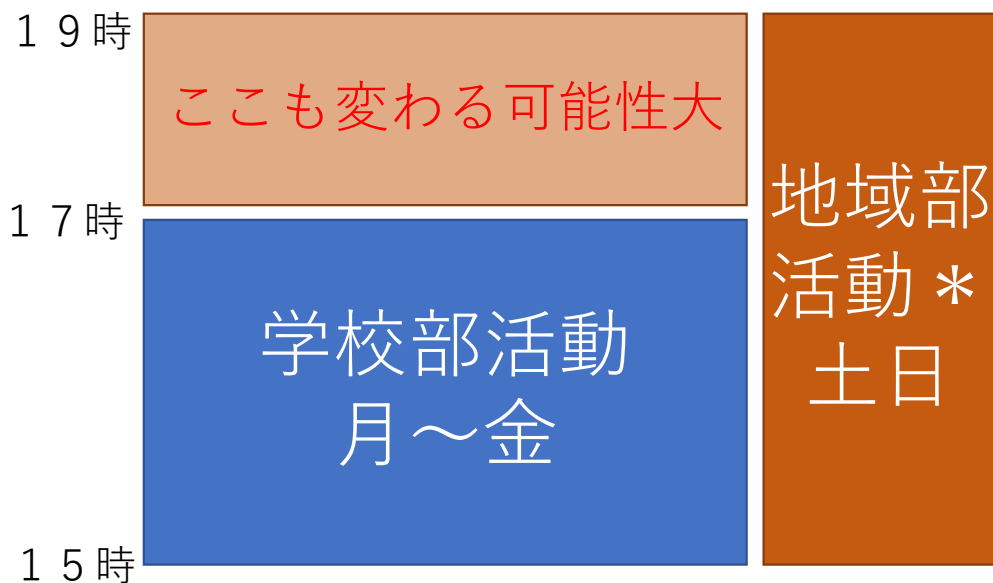
- 地域の実情を踏まえ、都市・過疎地域における他校との合同部活動の推進
- 地理的制約を越えて、生徒・指導者間のコミュニケーションが可能となるICT活用の推進
- 主に地方大会の在り方の整理（実態の把握、参加する大会の精選、大会参加資格の弾力化等）

※ 以上の取組は、主として中学校を対象とし、高等学校においても同様の考え方を基に取組を実施。

※ 私立学校は、以上に示した公立学校の取組を参考に、教師の負担軽減を考慮した適切な指導体制の構築に取り組むことが望ましい。

地域部活動制度導入で  
何がどう変わるのか？

# 変わる部活動 ～ R5年度から段階的に移行 ～



\*教員は関わらない  
\*付添手当も出ない

## メリット

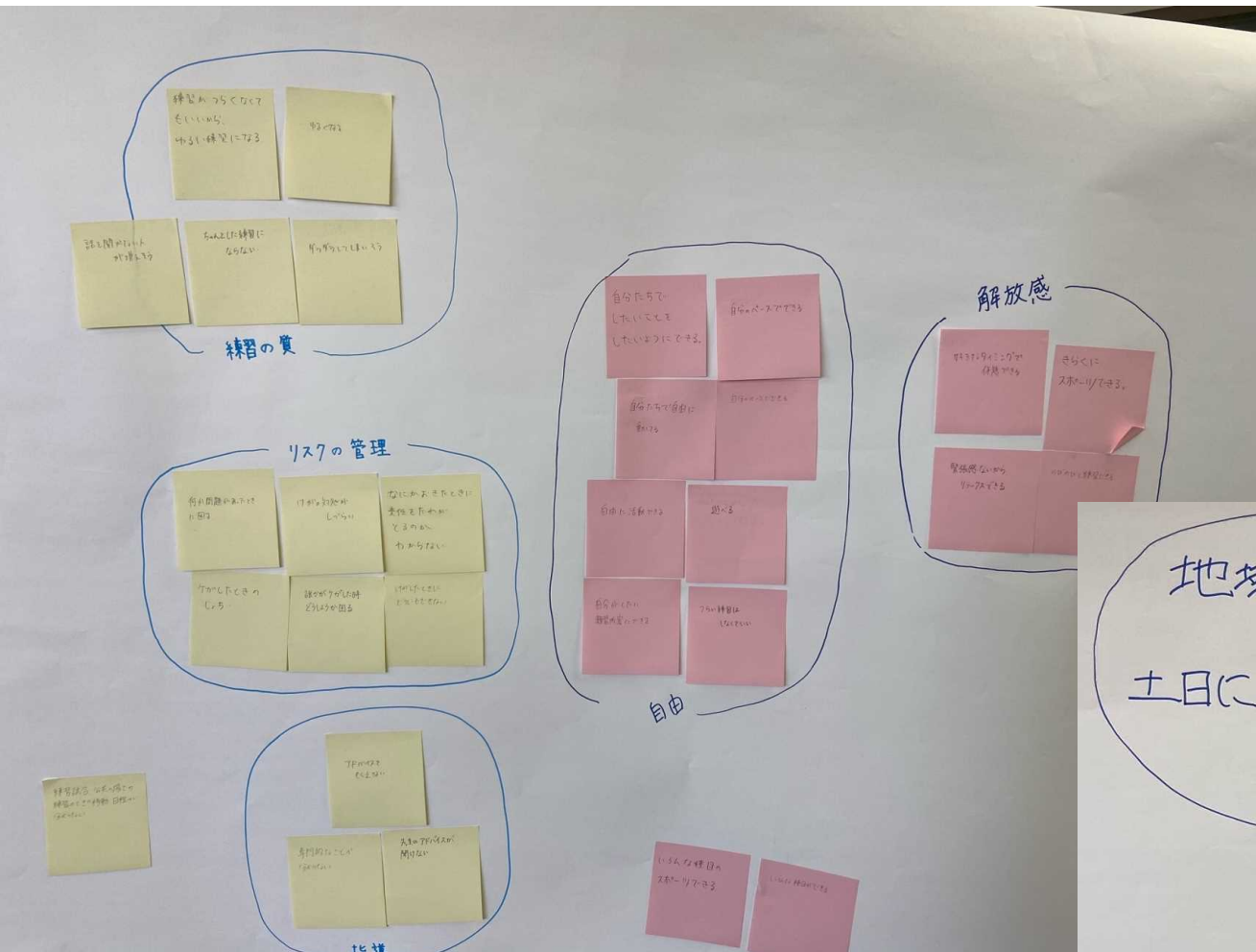
- 自分たちで自由にできる
- 別の活動もできる (いろいろできる)
- 専門的指導者に教えてもらえる

## デメリット

- 地域で面倒を見てくれる団体が必要
- 別途、費用が必要 (保険代・指導者謝金)
- 生徒自身が自律・自立する必要がある

# 地域部活動の受け皿(人と組織)が必要

# 地域部活動制度導入のワーク (山形県K高校)



- 黄色はデメリット
- ピンクはメリット
- 文字のみは対応策

地域ごとの部活の連盟を責任取る  
 ↓ アドバナーを出す(指導者ではない)  
 土日と同じ地域の部活動ごとで練習をする = ほとんど自由

他の連盟が協力して  
 その地域だけでなく練習する



### 責任のリスク

責任をとり  
組織が必要

責任をとり  
組織が必要

責任をとり  
組織が必要

責任をとり  
組織が必要

責任をとり  
組織が必要

### コスト

会計は費用が  
掛かる。

お金が発生する

### 新しい可能性

別メニューが  
出来る。

転部  
したがる

### 教師の負担の軽

負担が軽くなる

教師の負担が  
軽減される

### 弱体化

先生が指導者として  
活動する。

その先生が指導者として  
活動する。

先生が経験して  
きた技術を導入して  
もらう機会が減る。

### 場所

活動する場が  
狭くなる可能性が  
ある。

### 評価

評価の方法が  
変わる。

### 自由

自由にやらせて  
もらう。

自由にやらせて  
もらう。

### 自由

部活動が  
出来るようになる。

活動が出来るようになる。

### 思考力

自分で考えて  
判断出来るようになる。

自分で考えて  
判断出来るようになる。

責任だけ取ってくれる人  
・熱血指導者 (費用がかからない)  
・部活動上で自立する  
・他の国を見習う

# 団結力

教えてくれる人  
やってみ  
自分たち  
あわな可能性が  
ある。

主体的に  
取り組む  
仲間が  
いる。

通常の活動が  
なってしまう  
かもしれない。

メンバーの  
モチベーション  
が低い。

リーダーが  
いないから  
活動が  
続かない。

活動が  
続かない。

部員の数  
が少ない  
活動  
が  
続かない。

# 指導者

# 自由

集まりが  
自由  
に  
できる。

自分たち  
で  
活動  
できる。

自分で  
活動  
できる。

# コミュニケーション

人との  
関わり  
が増える。

仲間と  
話す  
機会  
が増える。

活動  
の  
楽し  
み  
が増える。

# リスク管理

けた  
ら  
大  
変  
な  
事  
が  
お  
こ  
る  
可  
能  
性  
が  
あ  
る。

活動  
の  
中  
で  
お  
こ  
る  
可  
能  
性  
が  
あ  
る。

# 自治

活動  
の  
中  
で  
お  
こ  
る  
可  
能  
性  
が  
あ  
る。

活動  
の  
中  
で  
お  
こ  
る  
可  
能  
性  
が  
あ  
る。

# 自治

時間  
を  
自分  
で  
決  
め  
ら  
れる。

活動  
の  
中  
で  
お  
こ  
る  
可  
能  
性  
が  
あ  
る。

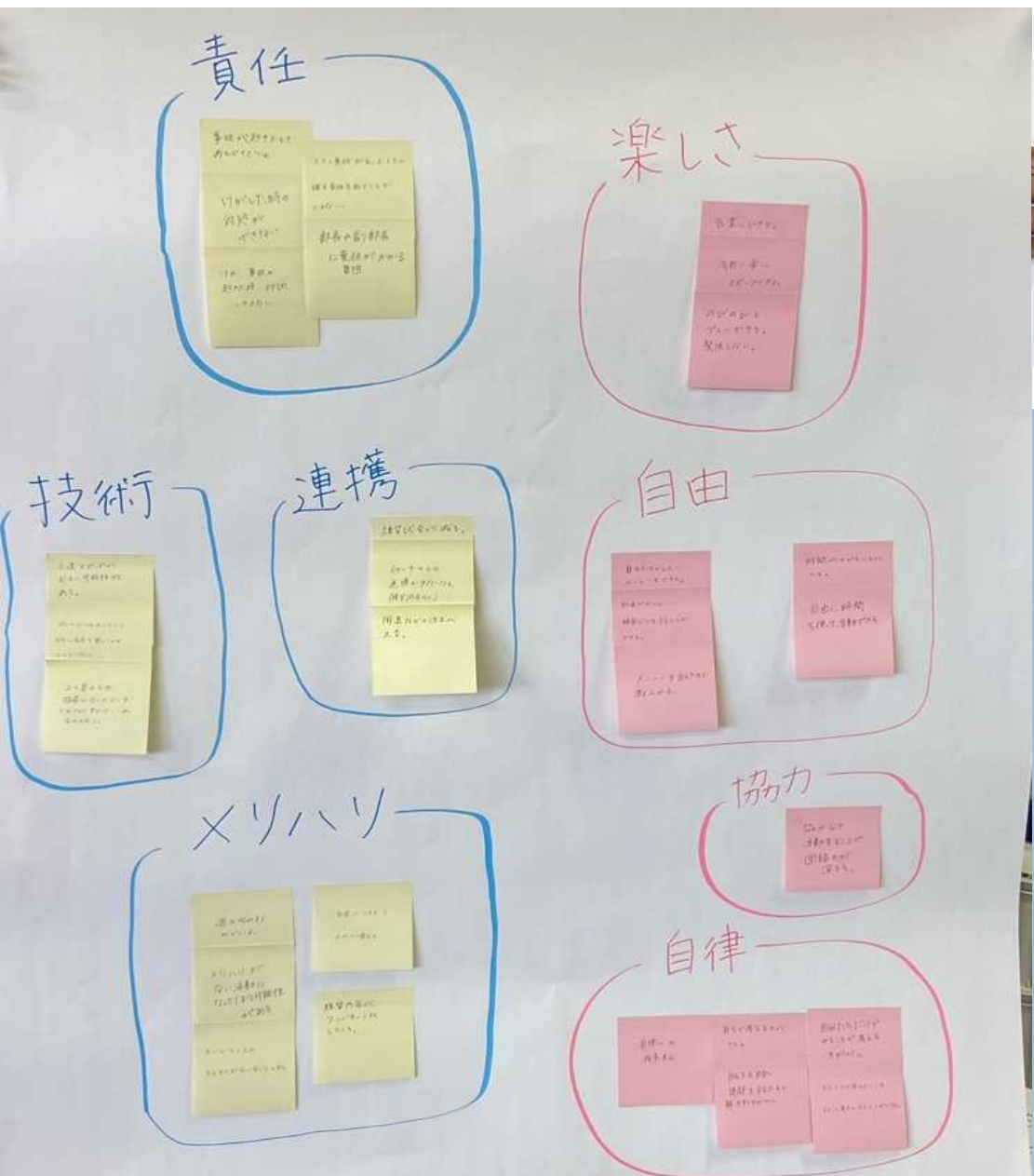
自分  
たち  
で  
考  
え  
て  
活  
動  
を  
行  
う  
可  
能  
性  
が  
あ  
る。

自分  
たち  
で  
考  
え  
て  
活  
動  
を  
行  
う  
可  
能  
性  
が  
あ  
る。

活動  
の  
中  
で  
お  
こ  
る  
可  
能  
性  
が  
あ  
る。

活動  
の  
中  
で  
お  
こ  
る  
可  
能  
性  
が  
あ  
る。

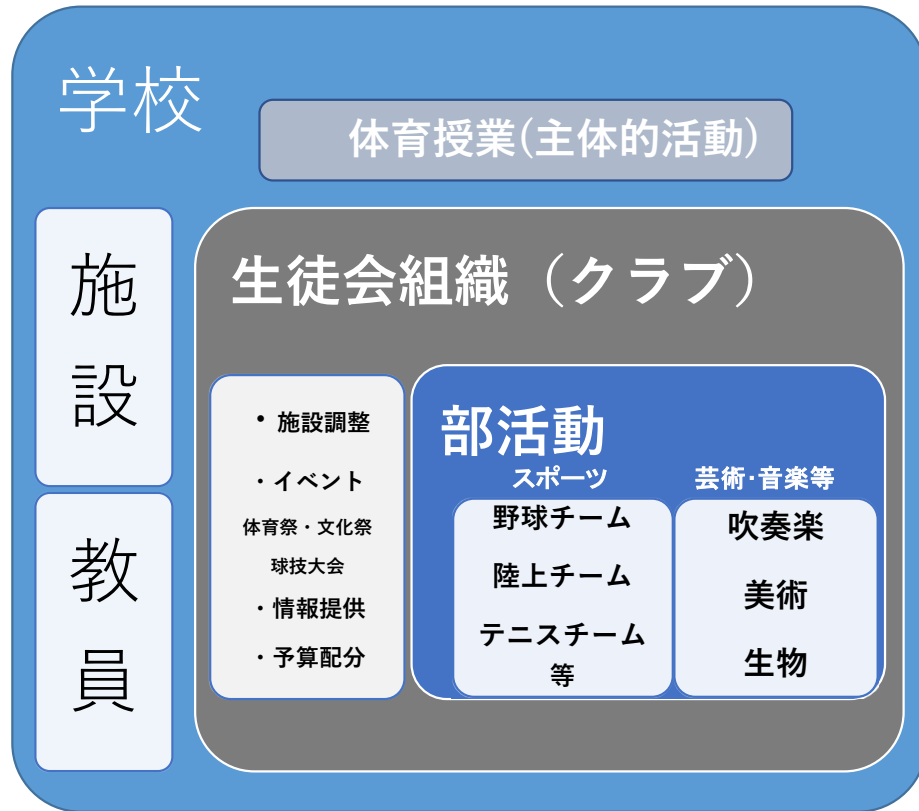
地域の人に 責任者になってもらう。  
普段の活動から自分達で考えて活動を行う。



● ボランティアで指導者を集める。  
 ● 区切りを「高校」から「地区」に変える。  
 → 施設を整える。 | 1人あたり  
 ○ 一団体の人数が増えるため、安く指導者を雇える。

- ## ワークのまとめ
- \* 自治・自律が重要  
(自分たちで考える・リーダーが必要)
  - \* 気楽にできる
  - \* 違うことができる
  - \* 組織が必要
  - \* 責任の所在が問題
  - \* 費用がかかる
  - \* 活動が停滞する
  - \* 指導者が複数で迷う

# 部活動の教育的意義



①自発的・主体的に活動する中でリーダーシップやフォロワーシップを学び、その結果、自分たちの権利としてスポーツを楽しむ(自治する)


②教員は、チームとして自治活動を基盤として、クラブ(生徒会)として自治することをサポートすることが部活指導の基本である。

③自分で考えて課題を解決することは体育の授業の中で学習させる。主体的・対話的で深い学びがめざされる。**地域部活動やスポーツの指導もこの方向となる**

- \* クラブの中には、いくつかのチームがあり、クラブメンバーとして共存・共生をめざしている。
- \* 学校におけるクラブの枠組みは「生徒会」の枠組みとなる。各部活団体はチームである。
- \* 教師は、本来のクラブシステムとしての生徒会運営をサポートし、「生徒の自主的・自発的な参加により行われる運動部活動」をめざさなければならない。

# 地域部活動制度の導入 ～ 具体的にどう変わるのか ～

	学校部活動(学校教育活動の一環)	地域部活動(学校・地域教育活動の一環)
指導者	教員・部活動指導員	各団体に登録した指導者（指導したい教員はこの団体に登録する）
責任の所在	学校長・教育委員会	各団体
活動費用	学校が負担（一部必要経費を各自が負担）	受け皿団体が負担 (指導者謝金・保険料・施設使用料等を結果として各自が負担することとなる)
施設使用料	<b>無料</b> （学校教育活動一環のため） 「部活動は、生徒会活動の一環であり、生徒会の下部組織である。そのため、みんなが関わる可能性がある。生徒会および部活動は、児童・生徒の自発的・主体的な活動であり、その組織は自治活動として自律的に運営される。このような活動の中で児童・生徒は共生の重要さやルールやマナー・エチケットなどを学ぶこととなる。」	<b>有料</b> （地域団体） （学校・地域教育活動としての目的と学習内容が明確であり、みんなが関わる可能性のある組織の場合は減免） * <b>全生徒のニーズ</b> を捉えて事業を起こせる場合は減免の可能性あり * 単一種目の活動である場合には「みんな」が関わる可能性が薄くなるため、減免はすぐわかない。
連絡・調整	教員と生徒	各団体と学校（教員）



対応に関する基本事項の確認  
～ 公益性と Club ～

# 地域部活動制度導入へ向けた対応

## 受け皿の見込みがある学校

- コミュニティスクール
  - 体育・スポーツ協会
  - 総合型地域スポーツクラブ
  - 各地域スポーツ団体
  - 各地域の芸術・音楽団体
  - 生涯学習団体
- e t c .

## 受け皿の見込みがない学校

- ピンチはチャンス
  - 既存の組織のしがらみなく解決策をだすことができる
- 
- 自分の学校で地域部活動受け皿の団体をつくる  
→Hiranoモデル

# ステークホルダーは誰か？

- (1) 生徒・児童
- (2) 教員
- (3) PTA関係者

一般の地域(中学校)は下記の団体も一緒に考えるべき

- \* 行政・スポーツ推進委員
- \* 総合型クラブ関係者
- \* 地域におけるスポーツ・芸術・音楽団体関係者等



# 官民公私の関係と地域部活動の受け皿としての地域スポーツ団体の立場

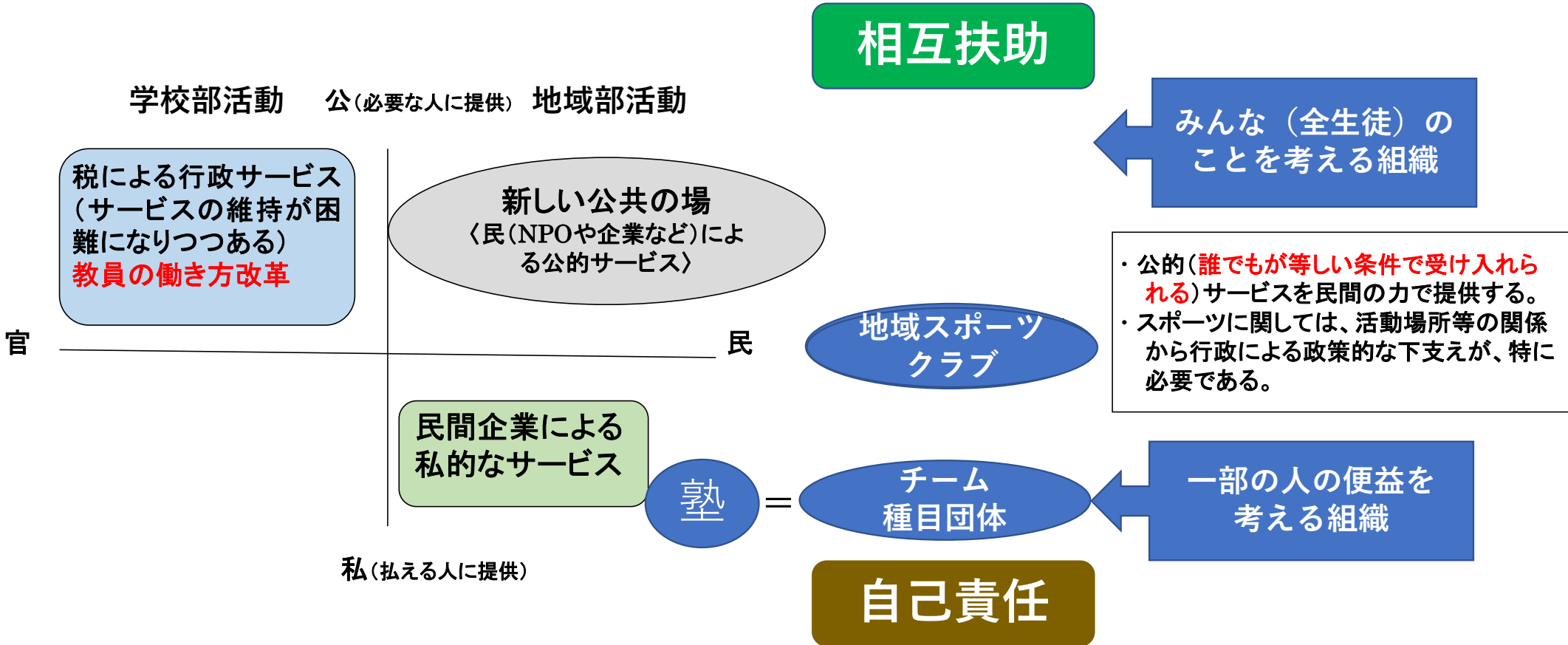


図1. 民による公的サービスの提供

\* 熊坂賢次による官民公私モデルをもとに松田が作成

部活動が「私的なサービス」となると費用を払える人だけがスポーツや芸術・音楽という文化を享受できる国となる

# チームとクラブ

どちらの組織も開放性が重要



「公」をめざして開放性があるなら  
クラブへ移行するはず

チームの平均人数約28人\*1



開放性がなくなると活動が停滞  
学校の中だけでとどまり、生活圏における活動につながらない

## ・チームとチームワーク

対象：チームメンバー

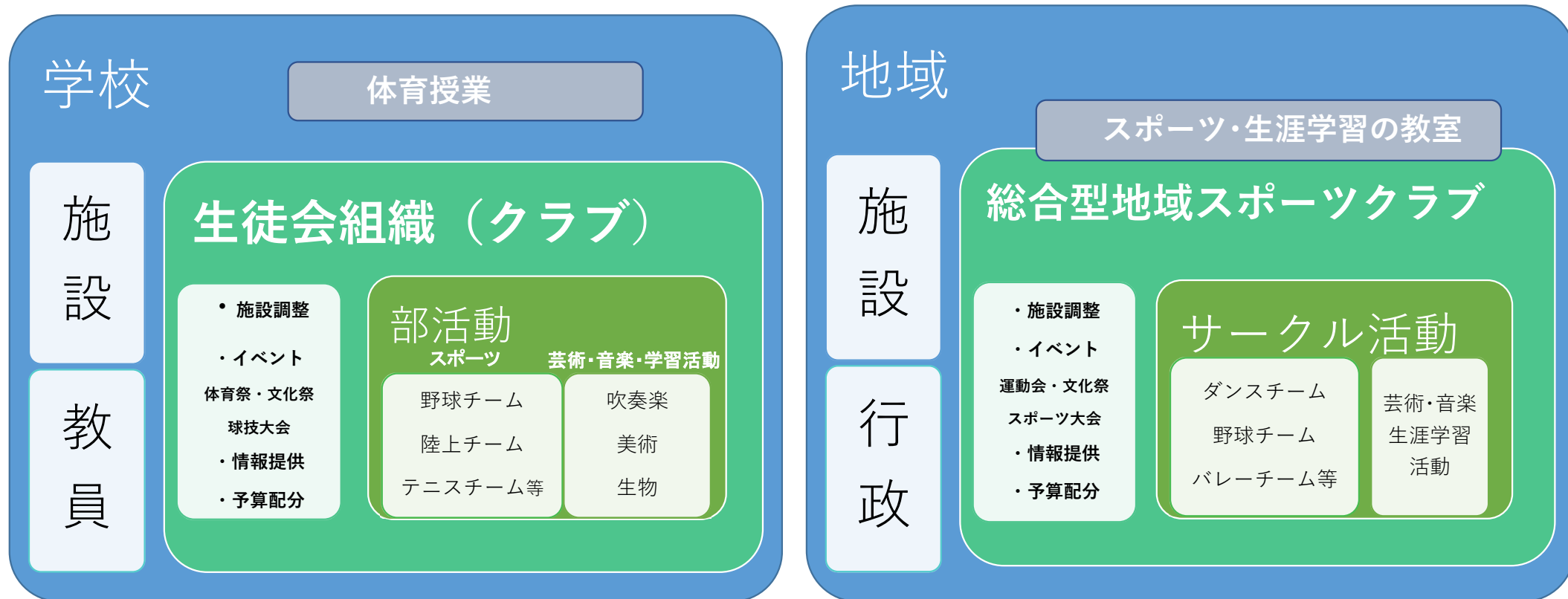
(チームおよび各種目の中での共存・共生)

## ・チームワーク + クラブワーク

対象：全生徒・顔と名前が一致する地域

(種目や文化項目を超えた枠組みでの共生)

\*1 スポーツクラブ協会調べ 2000年



- \* クラブの中には、いくつかのチームがあり、クラブメンバーとして共存・共生をめざしている。
- \* 学校におけるクラブの枠組みは「生徒会」の枠組みとなる。
- \* 教師は、本来のクラブシステムとしての生徒会運営をサポートし、生徒の自主的・自発的な参加により行われる部活動をめざさなければならない。
- \* 学校のスポーツシステムは地域においても同じであり「チーム単位＝クラブ」という認識が地域における生涯スポーツおよび芸術・音楽・生涯学習としての豊かなライフスタイルの実現を阻害している。
- \* スポーツ基本計画における「総合型地域スポーツクラブ」の育成がすすまない原因の一つに「クラブシステム」の認識不足がある。

図1. 学校・地域におけるクラブシステム

# 豊かなスポーツライフを支えるスポーツ環境

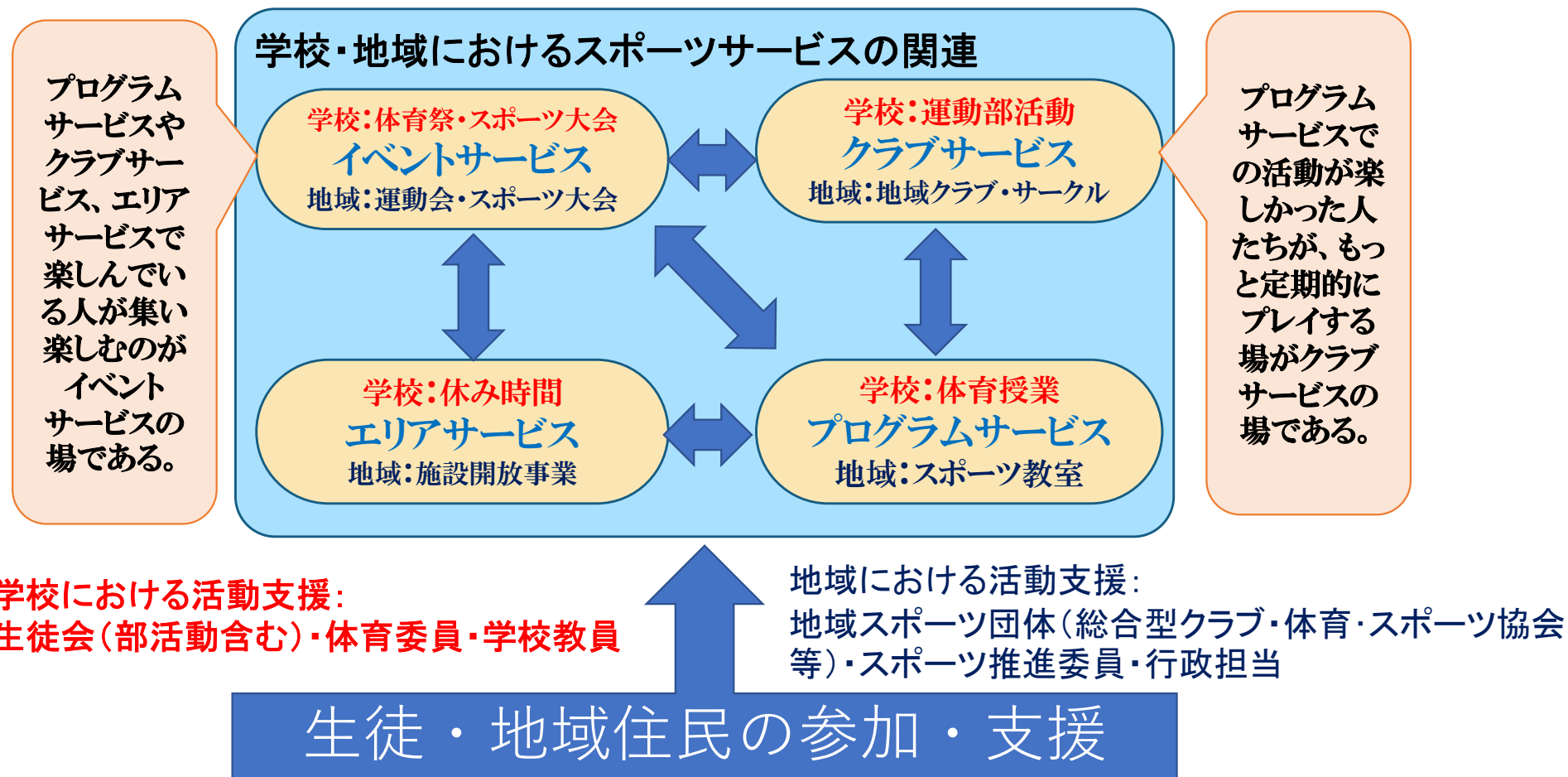
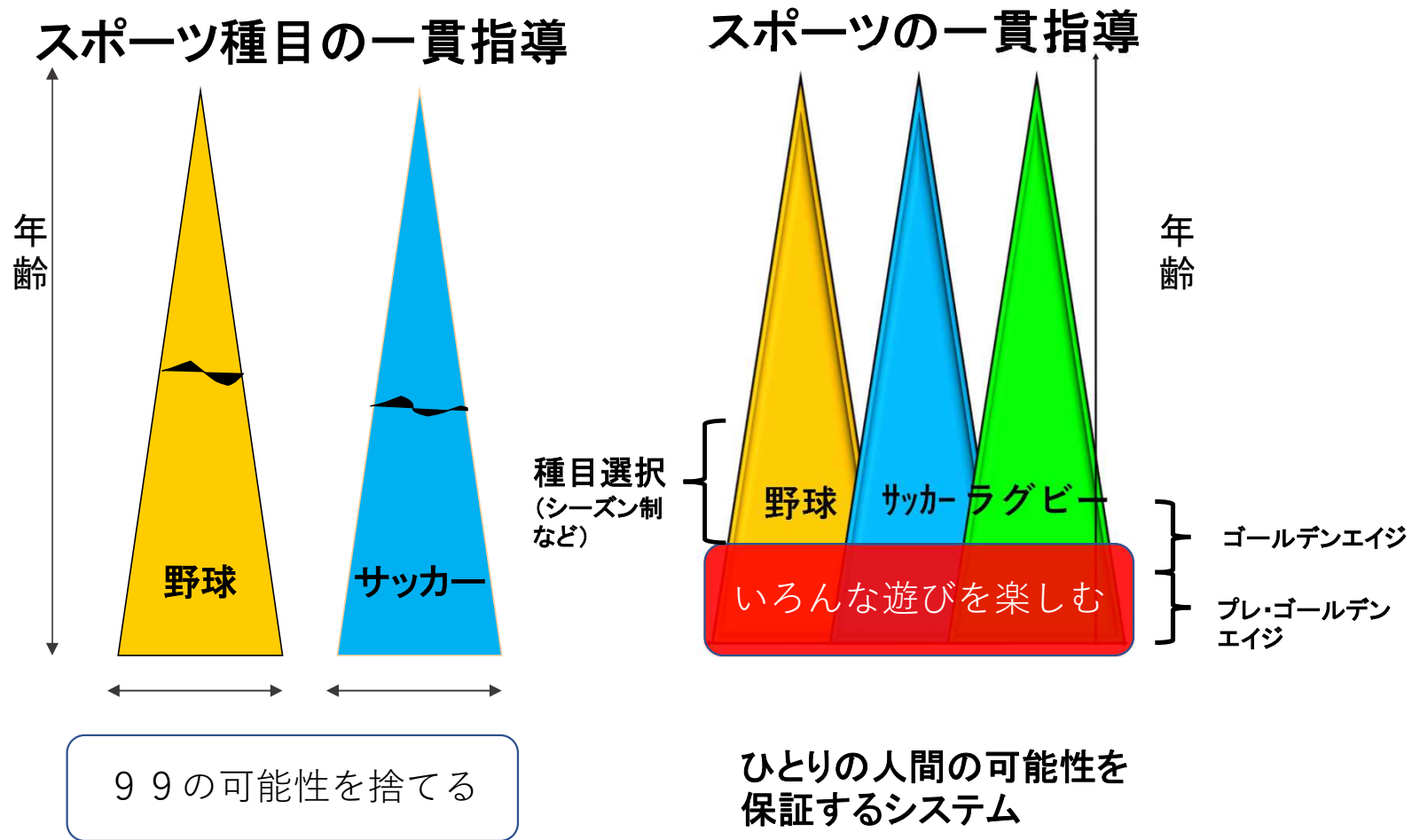


図2. 学校・地域のスポーツライフにおける各スポーツサービスの関係

# ひとの可能性を広げるクラブ活動

## 新しいシステム(しくみ)

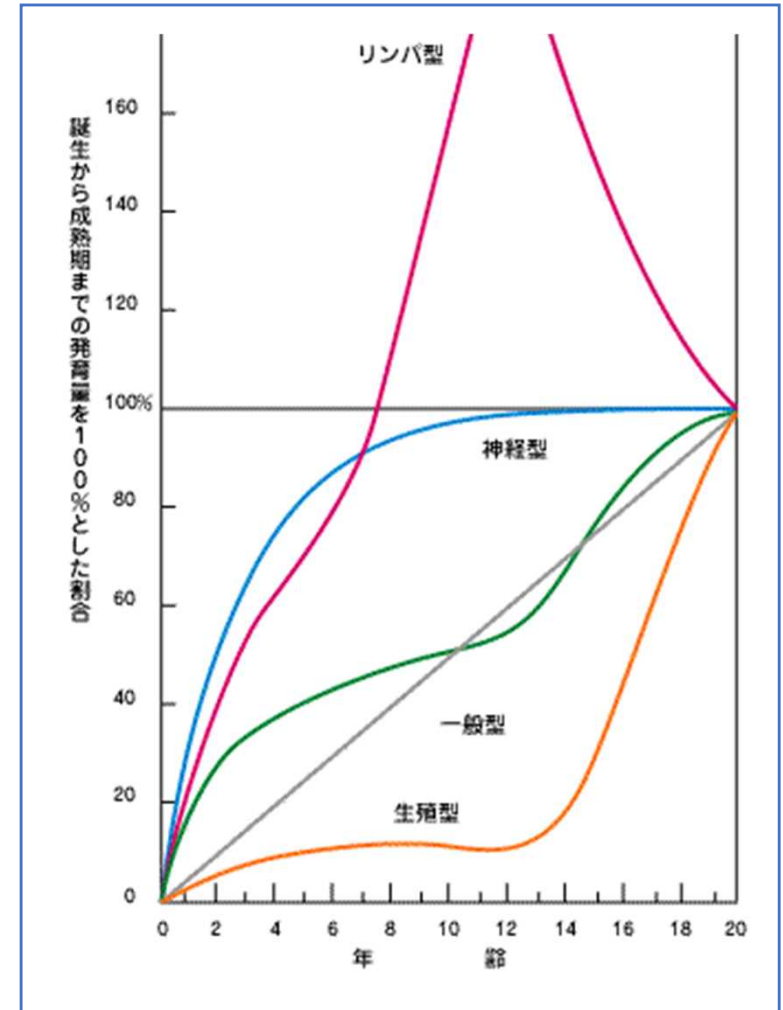


# スキャモンの発達曲線 9歳から12歳 ゴールデンエイジ

「即座の習得」が可能な唯一の時期

巧みな動作を吸収できる時期

プレ・ゴールデンエイジが基盤となってる



# 地域部活動移行のレバレッジポイント(梃子の力点)は 学校・行政・地域の意識改革(学校・行政・地域のリンケージ)

## ① 教員の意識改革

- ・ 生徒会(クラブ)改革
- ・ 部活動指導のあり方改革
- ・ 体育の授業改革
- ⇒ 生徒の意識改革へ (自発的・主体的活動へ)

## ② 行政の意識改革

- ・ 学校開放のあり方(減免制度)
- ・ 部活動の教育的意義理解
- ・ スポーツ推進委員の活用
- ・ 地域と学校を結ぶ場づくり

## ③ 地域スポーツクラブ及び指導者の意識改革

- ・ 立ち位置の確認(「公」or「私」)
- ・ スポーツ指導のあり方の意識改革(スポーツに自律する指導)



	ねらい1	ねらい2	ねらい3	ねらい4
単元のねらいと流れ	今の力量にあったルールやゲームの仕方慣れながら総当たり制でサッカーのゲームを楽しむ	チームや個人の課題を整理するとともに課題解決の方法を導き出す	チームの課題分析結果を活かしながらサッカーのゲームを楽しむ(対抗戦) 【反転学習を導入した授業】	高まった力にふさわしいルールで、相手にあわせて作戦を立てながら総当たり制でサッカーのゲームを楽しむ 【反転学習を導入した授業】
ゲーム形式等	11対11 (5対5(1/2コート) 総当たり戦)	教室での学習	8人チームの6対6(1/2コート)の対抗戦	8人チームの6対6(1/2コート)の総当たり戦
自分たちの力量を見極めながらゲームを楽しむ	自分たちの力量を見極めながらゲームを楽しむ	自己分析と問題解決	自チームを分析し、作戦を立ててゲームを楽しむ	相手チームを分析して作戦を立て、練習を工夫してゲームを楽しむ
「ねらい1」での授業の流れ	「ねらい1」での授業の流れ	KJ法とロジックツリーを活用した学習	授業後、次の授業までの学習内容(反転学習内容)	授業後、次の授業までの学習内容(反転学習内容)
ボールの止め方・蹴り方	ボールの止め方・蹴り方	KJ法による問題抽出と課題整理	自チームのゲームビデオをチームに配布	相手チームのビデオを対戦チームに配布
1対1のボールキープ	1対1のボールキープ	ロジックツリーによる課題解決のまとめ	ゲーム分析・課題整理・練習内容の導きだし	ゲーム分析・課題整理・練習内容の導きだし
浮き球のコントロール	浮き球のコントロール	課題解決方法の導出	時までに分析結果と練習内容をチームノートにまとめる	次時までに分析結果と練習内容をチームノートにまとめる
ボールタッチ	ボールタッチ	戦術の説明	授業開始から次の授業までの学習の流れ	
シュート	シュート	教室におけるグループワーク	チームミーティング	チームミーティング
フェイント	フェイント		練習	練習
ゲーム	ゲーム		試合	試合
			まとめ	まとめ
授業時間外(学習(反転学習))			ゲーム分析	ゲーム分析
			練習計画作成	練習計画作成

豊かなスポーツライフの実現には、生徒会、部活動の自治・自律が必要

- ⇒ 部活動の自治・自律の基礎を教えるのは体育授業じゃないの？
- ⇒ 生徒会の意識改革、自治・自律へ向けた指導（生徒会担当）





Hirano モデル  
～ Hirano Club 構想 ～

# HIRANO CLUB 構想 (HIRANOモデル)

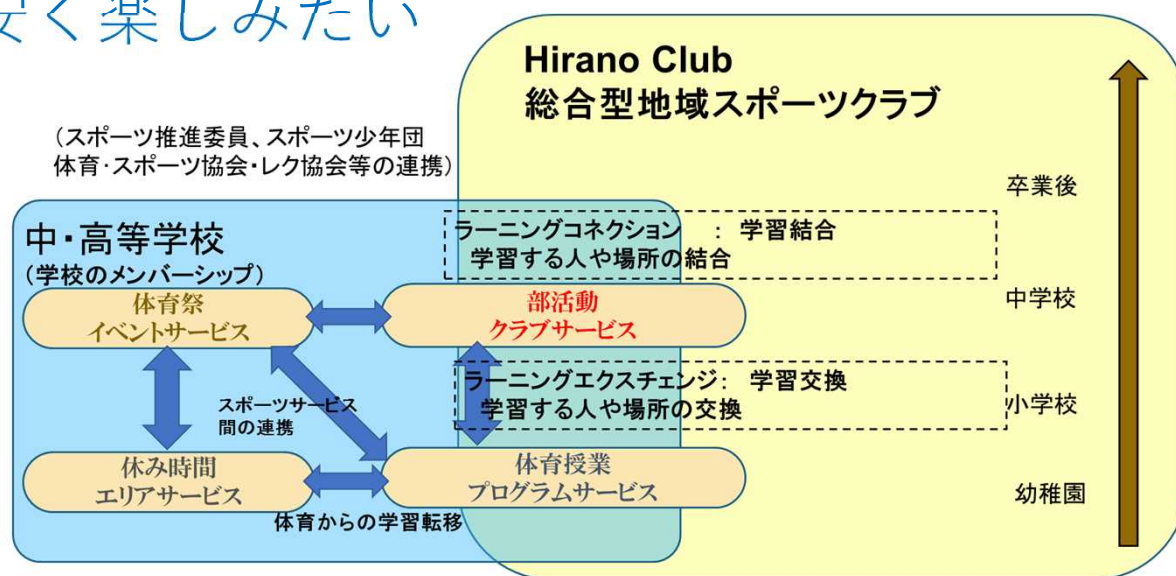
## 生徒のニーズ

- 土日も部活動をしたい
- 他の種目や活動も楽しみたい
- 指導者がいなくても活動したい
- なるべく安く楽しみたい

## 教員のニーズ

- 土日も指導したい
- 土日は休みたい
- 専門的指導をお願いしたい

学校の中に受け皿としての地域クラブを創るという取り組み



《組織図》

# Hirano Club 運営委員会

学校

生徒会

《部活動代表》

教員

《部活動顧問代表》

クラブの  
正会員

OB・OG

会

《各OBOG会代表》

PTA

《PTA代表》

地域

校内事業

- 中高合同部活動
- 小学校放課後遊び教室
- 部活動共通研修会

交流事業

- 現役対OBOG交流戦
- 地域運動会
- 合同研修会

地域事業

- 運動・スポーツ教室
- サークル活動
- OBOG交流会

事務局

《クラブマネジャー》

# Hirano Clubの会員構造と意思決定のあり方

意思決定メンバー

正会員（地域住民等）

理念に賛同し年会費を払っている人

生徒会員

生徒会メンバー・部長会代表

\* 生徒総会や部長会で意見をまとめる

学校代表

管理職・生徒指導部長・生徒会担当

\* 職員会議で意見をまとめる

クラブマネジャー

卒業生会員

OB・OG会代表

\* 各種目OB・OG会の総会で意見をまとめる

PTA会員

PTA代表

\* PTA総会で意見をまとめる

ソシオ会員

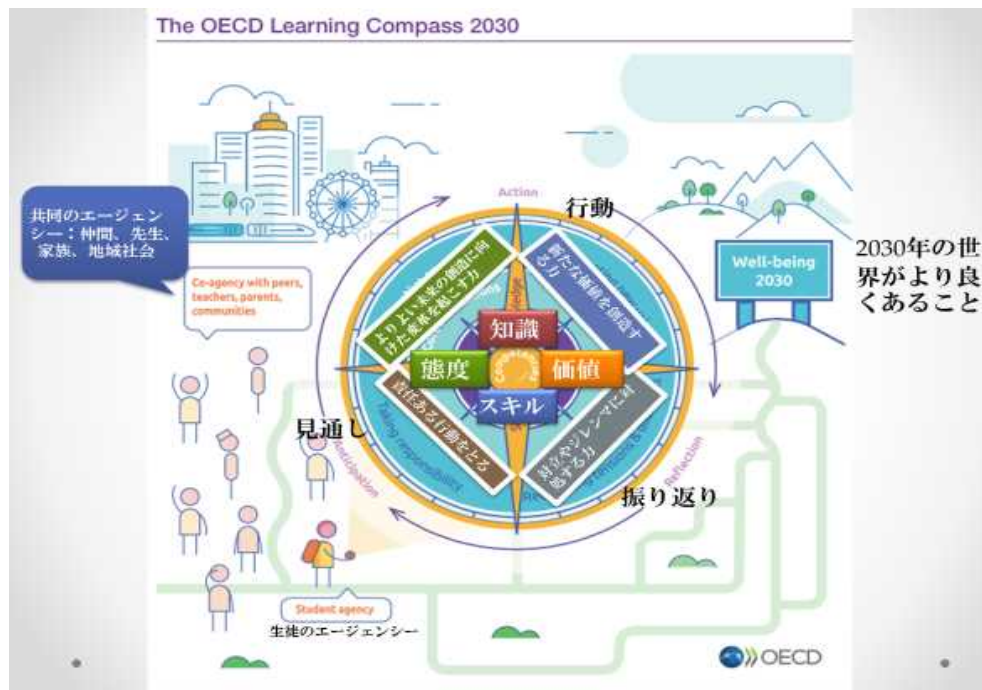
理念に賛同し寄付をいただいた人・団体

利用会員

クラブの事業に参加している人

# コミュニティスクール(CS)としてのクラブ

1. 「総合型地域スポーツクラブ」の枠組みでは小さい(「地域部活動問題」は一部分)
2. 今後の世界像(VUCA:変化のしやすさ、不確実さ、複雑さ、曖昧さ)を生き抜く力を育てる
3. Well-Being2030の実現(みんながよりよく生きる世界)にむけてエージェンシーを育む
4. はじめは小さく生んで、後々大きく育てていきたい



## Hirano Club ⇒ CSへ

- ・音楽
- ・芸術
- ・学問
- ・さまざまな体験活動

総合型地域  
スポーツク  
ラブ

- \*エージェンシー「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力」
- \*自発性などは一歩間違えば、自分自身で行動してさえいればなんでもいいということにつながりかねないが、エージェンシーは自分のことだけでなく、他者や社会とのつながりの中で育まれるモノである

参考：白井俊「OECD Education 2030プロジェクトが描く教育の未来」  
ミネルヴァ書房、2020.12

# これからの世界がめざすこと！ Well-Being2030 ・ エージェンシー ・ SDG s

- 2030年にみんながよりよく生きていける世界になる！
- そのためにはエージェンシーを育む必要がある
- エージェンシーを育むのは学校だけではない
- 世界の中で具体的にどんな問題や課題があるの??

ここから出てきたのが「SDG s」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



- \* 本校のSGH・WWLと大きく関連する
- \* コンピテンシーベースの学習
- \* Hirano Club(CS)と学校の協働により実現に向かう！！